

※ 本研究では、十分量が採取可能な試料の場合に、通常保存するものとは別に試料を採取し使用する。

【研究課題名】

先端医科学研究センターヒト組織バイオバンク事業における採取検体の質的管理の評価

【研究概要】

比較的高頻度で十分な試料を採取できる腫瘍症例を対象とし、RNA、DNAの保存状況を比較する。いくつかの症例についてはハウスキーピング遺伝子（アクチンなど）の発現をノザン法にて検討する。採取までの手術時間などを検討するとともに、手術切除後凍結保存までの保存状況を温度を変え、経時的に検討し、最低限レベルの保存条件を明らかにする。

【本研究の医学的意義】

現在横浜市立大学先端医科学研究センターおよび大学附属病院とで連携して、将来の医学研究のために、特定の研究のみに供するのを目的とするのではなく網羅的にヒト組織を収集保存している。保存されている試料は様々な状況で採取されているので必ずしも一定の品質を維持しているかどうか不明である。そこで、おおよその状態を把握するため、十分量の試料が採取される場合に通常保存する試料とは別に試料を採取し、特にRNA、DNAの保存状態を目安として試料の状態をチェックし、今後の試料採取条件の目安としバイオバンクの適正な運営に資するのを目的とする。

【分担研究者】

横浜市立大学医学部分子病理学 村上あゆみ

添田浩美

横浜市立大学先端医科学研究センターバイオバンク室 飯田友紀

川田直美

【試料提供協力】

横浜市立大学附属病院 一般外科、消化器・肝移植外科、泌尿器科、産婦人科